七箇所で示威運動

官業勞働では廿一日 大會を開いて失業問題で當局に迫る

官業勞働總同盟は曩て政府當局に軍縮に伴ふ失業問題對策、陸軍職工規則改正等を迫つたが、加藤海相の歸朝迄具體的回答を[illegible]され今日に及んだ、然るに

海相も 愈歸朝したので、何時迄も猶豫はならぬと、來る二十一日正午を合圖に全國六萬五千の官業勞働者一齊に起つて大示威運動を決行する事になつた、[illegible]

當日は 東京、横須賀、名古屋、大阪、呉、小倉、八幡の七箇所に於て各示威運動を行ひ、[illegible] 交通勞働組合の中西伊之助兩氏は十二日來阪し同上會本部に於て八木會長等と協議の結果[illegible]き大會を開催、同文の決議宣言を作製後各代表者は東京に急行して最後の交渉を行ひ、玉砕の覺悟で[illegible]ふ計畫であると（大阪十三日電話）

勞働會員の徳川議長訪問

（請願の爲め一日午前十時貴族院へ押しかく）

影の薄い四萬人

加藤さんの歸朝と共に極つた 官業勞働者の失業始末

體のよい詰腹だと ◇顫へが止まない職工達

軍縮の影響による官業勞働者の失業者數は當局の豫測では約六割の見込みである海軍工廠の現從業職工數六萬餘と觀れば約四萬人といふ失業者の波が市場に溢れ出るのである

當局の 惱みはこの大集團の失業者が俄に現れるとにあるのでいろんな腹案を作つて研究中であつたが、今度加藤海相が華府から歸朝したのを機會に大體の方針が決定した、それによると十三年度までは當局が自發的な解職は絶對にしない方針である從つて十三年度から着手の補助艦五隻の建造を繰上げて十一年度から着手するとし別に廢艦となつた十數隻の戰艦の始末にも當てやうと言ふのである職工側は此

方針は 當局の表看板で實は自然淘汰といふ弄が作つてあるのだと言て居る、職工側は云ふ『主力艦の建造が廢されて補助艦の作業になると仕事の性質にも多少の相違があつて從來極めて分業的であつた官業勞働者には不慣れな點も多い、殊に廢艦作業は技術工と言ふより筋肉勞働であつて技術工としては到底從業に堪へられない、從つて工廠を辭して街へ出るより外に途がないとになるが其の職工には些少の手當もしない當局は

體裁の 好い詰腹を迫つて居るのだ、現に最近でも毎月工廠一箇所で二百人乃至三百人の移動があるから愈當局で補助艦建造から廢艦作業に移ると移動數は一層增加する譯だ』と、一方海軍當局としては辭職するものは何うも出來ないと云ひ、十三年度に若し解職を斷行するとせば手當として賃銀の二年分を與へるとし更に專門的な技術獎勵の爲に技術研究會を組織して優良職工を優遇の計畫も進めて居るやうだ

全國の官業勞働者

廿一日失業の示威運動 きのふ奥議長訪問

小石川勞働會の中村理事等は十六日午前十時失業問題を提げて奥衆議院議長を訪問して陳情したが奥議長は非常に共鳴して失業手當の二ケ年分は至當であると思ふが二十二日までに陸海軍大臣と交渉して回答すると約したので一同は喜んで引き退がつたが二十一日には全國の官業勞働者の示威運動を催すさうである

海相に迫る

官業勞働總同盟 廿一日示威運動

官業勞働總同盟川本勞働聯盟理事安達和氏は十四日午後祕密裡に福岡縣八幡市に入込み八幡製鐵所當該幹事と打合す處あり十五日午前九時卅分下關發東京に向つた氏は山陽ホテルで語る

今回來幡の目的は本年一月十六日八幡製鐵所同志會主催の官業勞働總同盟第三回の決議文を夫々關係主務省に提出して失業手當恩給制度豊選賃行等の條項を要求し農商務、陸軍の二省は殆ど了解の域にまで進んで居るが海軍だけは加藤海相が歸朝するまでは確答が出來ぬといふので今日まで延引されてあるが加藤海相も既に歸朝したのでこの際目的を貫徹するため八幡製鐵所呉海軍工廠東京大阪兩砲兵工廠等を加へた全國の官業勞働總同盟が來る廿一日一齊に示威運動を行ひ各地よりの決議文を纏めて加藤海相に迫ることとなつたので先づ第一に八幡の同志に訪ひ打合せたのであるが幹部よりも寧ろ會員の方が熱心であるが若し吾々の要求を容れないにしても過激に亘らず最後まで穩な方法で戰ひたいと思ふ（下關來電）

失業防止の示威

奥議長と會見

小石川勞働會幹部十數名は十六日午前衆議院に奥議長を訪ひ軍縮の失業に對して二箇年間の手當支給に奔走ありたしと陳述し奥議長は來る二十二日回答すると答へたが回答の前日正午全國一齊に示威運動を行ふと

失業防止の大示威

官業勞働團體一齊に起つ

全國の官業勞働團體は二十一日一齊に失業防止の大示威運動を行ふ計畫で東京では小石川勞働會主催となり正午飛鳥山に集合、王子新道を經て三五ノ原に至り演說もやつて大いに氣勢を揚ぐべく、既に小旗二萬本大旗百本も作り行列は活動寫眞に撮つて保存するといふ又大阪よりは二十一日夜八木、熊野長、二和等の代表が上京し東京側の芳川、中村、窪田の代表と共に二十二日から加藤海相始め各大臣を歷訪すると